

株式会社どうこい  
 児童発達支援・放課後等デイサービス 支援プログラム  
 A-4 お餅搗き

- 「一人一人にそれぞれのフツウ」
- 自分で感じ・考え・選び・決める・行動する
- 視覚的・具体的・肯定的なコミュニケーション

取組み	①健康・生活	②運動・感覚	③認知・行動	④言語・コミュニケーション	⑤人間関係・社会性	家族支援	地域支援
準備① 餅米の計量・研ぎ・浸水	■普段の生活でお米を計量し研ぎ、炊く経験があるかを思い出してみる。■家で食べるお米と、お餅搗きで使うお米の違いに注目してみる。	■米粒に直接触れ、触感を楽しむ。■計量カップですくう時の触感、音を楽しむ。■計量カップからボウルに落ちる米粒の音を楽しむ。■ボウルに水を注ぐ様子を五感を使って楽しむ。	■餅米2kgを計量し、ボウルに入れてたっぴりの水に浸ける。■水に浸かった餅米が明日どうなるかをイメージしてみる。	■①～③で湧き出す思いや考えを言葉にして他者に伝えてみる。■他の子どもたちの言葉にも耳を傾けてみる。■思いを共有する。■困ったら助けを求める。■困っている子がいたら助ける。■準備に携わる全員で声を掛け合い協力し合いながら準備を進めていく。		■オープンフィールドのメニューとし、ご家族と一緒に餅搗きを楽しむ。■ご家族とのラポートを形成する。■サービスを提供する側・受ける側の関係を越えて、一緒に支援のあり方を考え・相談し・実践していく関係へと進みたい。	■地域のみなさんにも参加していただけのお餅搗きを企画する。■自治会・子ども会などを訪ね、どのようなイベントであれば協働可能かを模索する。
準備② 会場設営		■スタッフが白・杵など重いものが多いので、事前に注意を促す。■機材の重さを感じる。■機材それぞれの特徴に応じた運び方を工夫する。■怪我をしない・させないために注意を払う。	■スタッフが用意した機材リストと配置図に基づいて、子どもたちに準備を手伝ってもらおう。■子どもたちは、どの機材をどこに運ぶのかを読み取り、会場設営を行う。	■①～③で湧き出す思いや考えを言葉にして他者に伝えてみる。■他の子どもたちの言葉にも耳を傾けてみる。■思いを共有する。■困ったら助けを求める。■困っている子がいたら助ける。■準備に携わる全員で声を掛け合い協力し合いながら準備を進めていく。			
準備③ 餅米を蒸す	■蒸した餅米を食べ比べて、普段食べているお米と、どう違うか（同じか）考えてみる。	■蒸し器（蒸籠）で餅米を蒸す。■スタッフが蒸気や熱湯で火傷を負う可能性があることを事前に伝え注意を促す。■水を含んだ餅米の重さ、蒸される時のお米の匂い、蒸気の熱など、五感で楽しむ。	■スタッフの指示に従って、■蒸し器に水を入れる、■浸水済みの餅米1.5kgを布巾で包み、蒸籠に入れる。■コンロに着火。■蒸気の様子、匂いから蒸し上がりかを判断する。	■①～③で湧き出す思いや考えを言葉にして他者に伝えてみる。■他の子どもたちの言葉にも耳を傾けてみる。■思いを共有する。■困ったら助けを求める。■困っている子がいたら助ける。■準備に携わる全員で声を掛け合い協力し合いながら準備を進めていく。			
お餅をつく① 下拵え	■手洗い、消毒をする。	■蒸し上がった餅米を臼に入れ（熱いので注意）、■杵で押し潰していく。杵は腰に構えて、脚腰の動きだけで加圧する。■複数で下拵えするときは他の杵が手に当たらないよう、長めに持つ。■米粒がほぼ潰れて飛び散らない状態になるまで拵えたら、■20%くらいの力で軽く杵を使って搗く。軽く搗いて餅米が飛び散る場合は、再度念入りに押し潰す。		■①～③で湧き出す思いや考えを言葉にして他者に伝えてみる。■他の子どもたちの言葉にも耳を傾けてみる。■思いを共有する。■困ったら助けを求める。■困っている子がいたら助ける。■下拵えの時から、掛け声を掛け合い、搗き手、取り手、応援団の三者が一つになって搗き上げる。			
お餅をつく② 杵で搗く		■下拵えが終わったら、杵で搗く。■搗き手を1人、2人、3人と増やしていく。■取り手と呼吸を合わせて搗く。■臼の縁を叩くと杵が割れて木片が餅に混じるので注意。■粘りが出てくると搗いた杵がお餅から離れにくくなるので、適宜、杵の先端をお湯に浸けて湿らせておく。■取り手の判断で、仕上げに入る。仕上げは60%くらいの力でまとめるように搗く。■搗きあがったら桶に移し、屋内に運ぶ。		■①～③で湧き出す思いや考えを言葉にして他者に伝えてみる。■他の子どもたちの言葉にも耳を傾けてみる。■思いを共有する。■困ったら助けを求める。■困っている子がいたら助ける。■掛け声を掛け合い、搗き手、取り手、応援団の三者が一つになって搗き上げる。			

お餅をつく③ 千本搦き		<p>■下拵えが終わったら、棒状の杵×5本で輪になって臼の周りを回りながら搦く。■搦き手は1周ごとに杵の先端をお湯に浸す。■参加者全員が交替で、搦く。■棒が隣の人に当たると怪我をするので、注意する。■取り手の判断で、仕上げに入る。仕上げは60%くらいの力でまとめるように搦く。■搦きあがったら桶に移し、屋内に運ぶ。</p>	<p>■①～③で湧き出す思いや考えを言葉にして他者に伝えてみる。■他の子どもたちの言葉にも耳を傾けてみる。■思いを共有する。■困ったら助けを求める。■困っている子がいたら助ける。■掛け声を掛け合い、搦き手、取り手、応援団の三者が一つになって搦き上げる。★★★千本搦きは、コミュニティを構成するすべての人の幸せを祈念して、年齢・体力・性別・障害の程度に関係なくメンバー全員で搦きます。小さな1回でも千人分集まれば、一臼搦き上げられる。だから「千本搦き」と呼ばれています。</p>
お餅を丸める		<p>■お餅の塊を左手で掴み、親指と人差し指の間からお餅を搾り出す。■搾り出されたお餅を右手で回しながら千切り取る。■餅粉をはたいて両掌で丸める。</p>	<p>■①～③で湧き出す思いや考えを言葉にして他者に伝えてみる。■他の子どもたちの言葉にも耳を傾けてみる。■思いを共有する。■困ったら助けを求める。■困っている子がいたら助ける。</p>
お餅を猫にする		<p>■切り餅にするため、お餅を長く伸ばして餅箱に収める。■作りたい切り餅のサイズに合わせて太さを調整する。■一塊のお餅を切り分けたら、どんな形になるのか等想像してみる。★猫が寝ている姿に似ているので「猫」という。★しばらく乾かし、ある程度硬くなってから包丁で切り分けます。</p>	<p>■①～③で湧き出す思いや考えを言葉にして他者に伝えてみる。■他の子どもたちの言葉にも耳を傾けてみる。■思いを共有する。■困ったら助けを求める。■困っている子がいたら助ける。</p>
お餅を食べる	<p>■自分たちで搦いたお餅を味わう。■普段食べているお餅との違いを考えてみる。</p>	<p>■きな粉、お醤油、大根おろし、餡子など、色んな素材のトッピングを試してみる。■素材ごとに、乗せ方・食べ方を工夫する。■初めて食べる素材の場合は、食べる前にどんな味がするのか想像してみる。■落としたりこぼした場合はスタッフに相談する。</p>	<p>■①～③で湧き出す思いや考えを言葉にして他者に伝えてみる。■他の子どもたちの言葉にも耳を傾けてみる。■思いを共有する。■困ったら助けを求める。■困っている子がいたら助ける。</p>
片付け		<p>■スタッフの指示に従い使った機材を片づける。■臼・杵はお湯・束子・布巾で洗い、日陰に干す。■餅箱・食器は台所で洗って拭き、所定の場所に戻す。■机・椅子は布巾・雑巾で拭いて所定の場所に戻す。■餅粉・トッピング素材は密封して冷蔵庫に収める。■それぞれの片付け方について、なぜそうするのかを考える。</p>	<p>■②～③で湧き出す思いや考えを言葉にして他者に伝えてみる。■他の子どもたちの言葉にも耳を傾けてみる。■思いを共有する。■困ったら助けを求める。■困っている子がいたら助ける。</p>
振り返り			<p>■お餅搦きの日を振り返り、自分が気付いたこと、心に残ったこと、驚いたこと、困ったこと、嫌だったことなどをイメージし、■言語化し、■スタッフや他の子どもたちに伝える。■自分以外の子どもたちの言葉にも耳を傾ける。■次のお餅搦きへの希望ややってみたいことについて話し合う。■みんなの思いや希望を記録する。</p>